



Tokyo Midtown Award 2015 News Letter vol.1

**速報！今年度のアートコンペ応募者数のほか、
六本木アートナイト／ミラノサローネでの活動をレポート！**

～Tokyo Midtown Awardはネクストステージへ～

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘・応援を目的とした「Tokyo Midtown Award 2015」を、＜アートコンペ＞と＜デザインコンペ＞の2部門で開催しています。開業以来、東京ミッドタウンは『“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)”を創造・結集し、世界に発信し続ける街』をコンセプトに街づくりを進めてきました。「Tokyo Midtown Award」は、その一環として2008年より毎年開催しているアートとデザインのコンペティションで、今回で8回目の開催となります。

本ニュースレターでは、今年度のアート・デザイン両コンペの速報や、Tokyo Midtown Awardが目指している「受賞者への支援を通して“JAPAN VALUE”を発信すること」への新たなチャレンジについて、お知らせいたします。

Tokyo Midtown Awardは前回までに、述べ約1万組の若い才能がチャレンジし、アートコンペでは33組、デザインコンペでは61組の受賞者が生まれ、商品化など夢への一歩を踏み出しています。

目次

1. Tokyo Midtown Award 2015 募集速報
2. 受賞者 活動レポート①：アートコンペ受賞者が「六本木アートナイト」に参加
3. 受賞者 活動レポート②：デザインコンペの作品群で「ミラノサローネ」に初出展
4. いよいよ募集開始！Tokyo Midtown Award 2015 デザインコンペ

◆ Tokyo Midtown Award 2015 募集速報

アートコンペ:募集を終了～今年は250組の応募～

今年もテーマを設けず、都心の複合施設である「東京ミッドタウン」に展示するサイトスペシフィックな作品を募集したアートコンペ。自由度が高く、また多くの来街者に作品を見てもらえるチャンスでもあるアートコンペには、昨年よりも〆切が早いなか、250組の応募がありました。

この後、6月15日(月)に書類による1次審査、7月13日(月)に模型によるプレゼンテーションを行う2次審査を予定しております。応募者は、実際に制作する作品模型と共に“東京ミッドタウンのどの場所に、どのように設置するのか”という点までプレゼンテーションする必要があり、見学者にとって毎年見どころのある2次審査となっております。公開審査となりますので、今後もぜひご注目ください。

審査の流れ

作品募集

5/1(金)～5/21(木)
(〆切)

1次審査

6/15(月)
提出書類で審査
応募作品から12作品を選出

2次審査

7/13(月)
入賞6点が決定
プレゼンテーション・模型審査
制作補助金100万円を支給

最終審査

9/28(月)
完成作品審査
グランプリ、準グランプリ(各1点)、優秀賞(4点)を内定

発表・授賞式

10/16(金)開催
東京ミッドタウンB1Fに
作品展示予定
展示は11/8(日)まで



昨年の1次審査の様子



昨年の2次審査の様子



昨年の最終審査の様子



昨年の受賞作品 展示の様子

デザインコンペ:6月26日(金)募集開始！今年のテーマは「おもてなし」

⇒詳細は4P

デザインコンペは、「おもてなし」をテーマとし、日本の伝統ともいえる美しい心づかいが感じられる作品を募集いたします。今回初めて、グランプリ受賞者を世界の優れたデザインが一堂に会する「ミラノサローネ」開催中にイタリア・ミラノへ招待し、最先端のデザインをご覧ください機会を設けます。

◆ 受賞者 活動レポート① : アートコンペ「六本木アートナイト」参加！

今年も大盛況に終わった、夜通し楽しめる東京一のアートの祭典で

Tokyo Midtown Award 2014のアートコンペ受賞者たちが作品展示とワークショップを開催！

6年目を迎え、大盛況のうちに閉幕した「六本木アートナイト」。日没から日の出までの時間をコアタイムに、日本の最先端のアートが集結する一夜限りのアートの祭典は六本木の風物詩となりつつあります。

「サントリー美術館」のある東京ミッドタウン、「森美術館」を有する六本木ヒルズ、「国立新美術館」のアートライアングルと呼ばれる六本木の三角形を中心に、あらゆる場所でアート作品の展示やパフォーマンスが観られる本イベントに、前年の「Tokyo Midtown Award」アートコンペ受賞者が参加できることも、このアワードのひとつの特長です。

今年も「Tokyo Midtown Award 2014」の受賞者6組の新作が、東京ミッドタウンB1Fの「ストリートミュージアム」で展示されました。「六本木アートナイト」では、あちこちにワークショップのブースが設けられ、訪れた方は気軽にアートに触れられる参加型のイベントを楽しんでいました。

「ストリートミュージアム」で約1か月、東京ミッドタウンを彩った作品たち



「Empty closet (m13)」
大塚 亨

大量消費されがちな「服」を、
仏像彫刻技法にて木彫で制作。



「Untitled story」
加藤 立

東京ミッドタウン内で人々が話
した生の会話を「素材」とし、
文字に変えてガラスに置いた作
品。



「世界で待ち合わせ」
小林万里子

川で生まれ、大海原を生き、母
となってまた川で産卵しその一
生を終える鮭。そこから続く
「循環の物語」を麻や絹で表し
た。



「Canon」
住田衣里

街を行き交う人の服装が華やか
になっていく春。新しいスター
トを切り、一歩ずつ踏み出して
いく人々から着想し、花道を歩
くハイヒールを制作。



「The small world in
daily life」
原田 武

普段見ることの出来る小さい世
界の中に春が訪れている。そ
んな春の日常の風景を切り取っ
て、金属造形で東京ミッドタウ
ン内に再構築した。



「The fluctuation」
山田弘幸

花は散り、いずれ冬になりまた
春が来る。その周期、変動
（fluctuation）に合せて人間、
植物や昆虫も、己を変化させて
存在する。環境が与える力が作
品を物理的に変化させる事で眼
に見えない関係を可視化させた
作品。

「六本木アートナイト」では2014年度の受賞者がワークショップを開催！

東京ミッドタウンのプラザB1F各所で開催された、受賞者のワークショップ。当日飛び込み参加で楽しんでいただく各プログラムは、総勢約700名のお客さまの参加があり、アートナイトのコアタイムを盛り上げました。



昨年度グランプリの原田武さんは金属造形作家。お客さまがその場で、ジュエリーを制作できる彫金体験のワークショップを開催。最長90分待ちの人気のプログラムとなりました。

参加者の方々が、真鍮などの小さな金属板にされた表現が、予想以上のものばかりで、自分自身の刺激になりました。多くのご参加に感謝しています。（原田武）



普段は上野公園で似顔絵を描いているプロの似顔絵師をキャスティングして、「1分間あなたの顔を凝視したあと、目を閉じ、似顔絵を描きます」というパフォーマンスを実施したのは、昨年度準グランプリの加藤立さん。描かれる側が描く側を見守る不思議な体験には、140名近い参加者が並びました。



テキスタイル作家である小林 万里子さん（昨年度優秀賞）は、ストリートミュージアムでの展示に連動し、『蘇れサケ！復活プロジェクト』を開催。

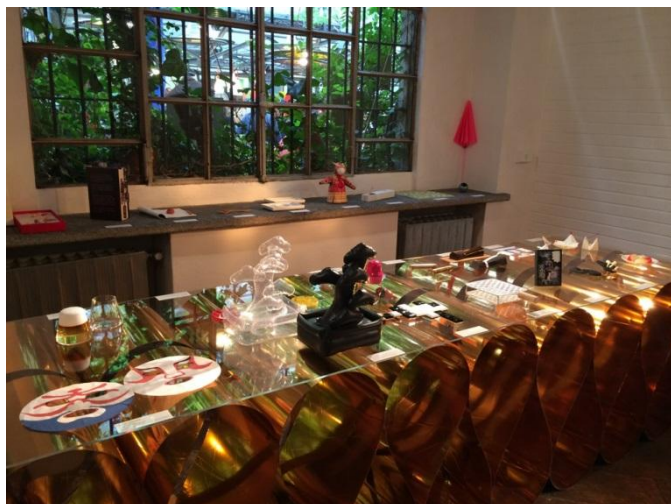
はさみや針を使って自由に参加できるこのワークショップには、最多の190名が参加し、参加者それぞれが、骨だけのサケに色とりどりの布で趣向を凝らして飾った、見事な作品に仕上がりました。

この作品は「六本木アートナイト」開催後の小林さんの個展に、さらなるアレンジも加え、新作として出品されました。

◆ 受賞者 活動レポート② : デザインコンペ「ミラノサローネ」出展

「ミラノサローネ」開催期間に「Tokyo Midtown Award」がミラノ初出展

今年も4月14日～19日にかけて、世界最大のデザイン見本市「Salone del Mobile Milano(ミラノサローネ国際家具見本市)」が開催されました。「Tokyo Midtown Award デザインコンペ」の受賞作を展示し、若手デザイナー、アーティストや日本の技術をサポートする東京ミッドタウンの活動を世界に向けて広く発信する機会をつくり、出展デザイナーが国際的な活動をスタートする一助となることを目的に、この度ミラノにて初の展示を行いました。



ミラノの中でも「最も感度の高い人たちが必ず訪れる」とも言われるギャラリー、Spazio Rossana Orlandi (スパッツィオロッサーナ・オルランディ)を会場とし、「Tokyo Midtown Award」デザインコンペの受賞作品22点を展示しました。

空間構成はミラノサローネ出展経験のある建築家・吉田愛(SUPPOSE DESIGN OFFICE Co.,Ltd.)と、同じく自らのプロダクトで出展経験のあるグラフィックデザイナー柿木原政広が担当。金色の掛け軸を思わせるタペストリーに、かつての受賞作のひとつ「エア盆栽」を6倍大のモデルで展覧会用に作成するなど、「日本のプロダクトである」ということを有意義に伝えることができる空間を考案しました。



▲会場の様子1



▲会場の様子2

会場であるロッサーナ・オルランディはミラノ随一のセレクトショップ&ギャラリーとして知られており、一日に約5千人もの来場がありました。目利きであるオルランディ女史からも「ユニークなプロダクト」であると評され、ロンドン・コンランショップのバイヤーなどからも好意的な意見が寄せられました。商品化未定の作品についても、世界各国のバイヤーから販売予定などの質問が多く挙がりました。

今回の展示限定でアイコンともなっていた「エア盆栽」のオリジナル10個を€48(日本円約6,480円)でトライアル販売したところ、期間中に完売。作品のパワーや、「ミラノサローネ」に来場する方たちとのマッチングの可能性を感じられる展示となりました。



会場展示で最も人気が高かった、「縁起のいい貯金豚」(左、2011年グランプリ受賞後商品化)と、2013年優秀賞の「マト良子」(右)

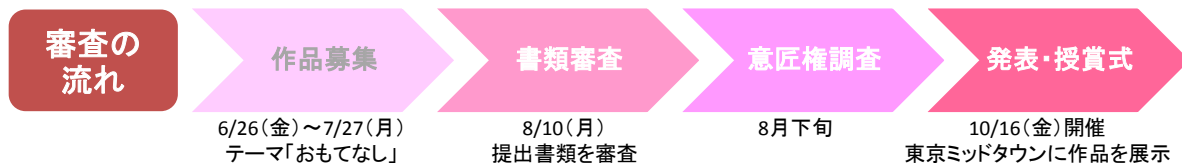


「日本」の文化が伝わりやすい「歌舞伎フェイスパック」(左、2008年学生の部準グランプリ受賞後商品化)、2014年度のグランプリ「和網」も人気(右)

◆ いよいよ募集開始！Tokyo Midtown Award 2015 デザインコンペ

デザインコンペ:6月26日(金)募集開始！今年のテーマは「おもてなし」

デザインコンペは、「おもてなし」をテーマとし、日本の伝統ともいえる美しい心づかいが感じられる作品を募集いたします。今回初めて、グランプリ受賞者を世界の優れたデザインが一堂に会する「ミラノサローネ」開催中にイタリア・ミラノへ招待し、最先端のデザインをご覧ください。機会を設けます。



※昨年の審査の様子

＜事前説明会を実施＞

2015年6月17日(水)19:00～20:00(18:30
受付開始)、7月4日(土)14:00～15:00
(13:30受付開始)にミッドタウン・タワー5Fデ
ザインハブ内インターナショナル・デザイン・リ
エゾンセンターにて説明会を実施します。応
募のコツや審査の流れを確認いただける機
会となり、どなたでも無料で参加いただくこ
とができます。※事前登録不要

◆審査員コメント

小山 薫堂



放送作家/脚本家/N35inc・(株)オレンジ・アンド・パートナーズ代表/
東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科長

今年もまたこの季節がやってきました。Tokyo Midtown Awardの審査は、自分にとって今や夏の風物詩！花火大会以上にワクワクします。が、毎年たくさんの応募作品が届くので、実はこの審査、なかなか大変です。一点あたりの平均審査時間はおおよそ数十秒！・・・ですので、絶対に「理屈で説明するのではなく、一目見た瞬間にイイ！と思えるシンプルな作品」のほうが最終審査まで残りやすいと思います。

「おもてなし」をどう表現するか・・・は、審査員をどうもてなすか、ということなのかもしれません。

佐藤 卓



グラフィックデザイナー/佐藤卓デザイン事務所 代表取締役

「おもてなし」には、ちょうどいい感覚が大切でしょう。やり過ぎるとおせっかいになってしまうし、やり足りないと冷たい印象に映ります。「おもてなし」は、相手のために前もって何をしてあげるといいのかを考えることであって、自分が思いついたことを相手に押し付けることではありません。自分が思いついたことを、つい肯定的に捉えてしまいがちですが、それを相手の気持ちにならなるとことん疑ってみてください。この姿勢は、デザインするうえでとても大切です。

デザインコンペ審査員 / 柴田 文江(プロダクトデザイナー/武蔵野美術大学教授)、原 研哉(グラフィックデザイナー/武蔵野美術大学教授)、水野 学(クリエイティブディレクター/慶應義塾大学特別招聘准教授)

◆ 進化を目指す、Tokyo Midtown Award

狩谷 俊介(東京ミッドタウンマネジメント株式会社 タウンマネジメント部)



今回で8回目を迎える本アワード。2013年よりアートコンペグランプリ受賞者をハワイ大学が実施するアートプログラムに招聘、2015年4月には、ミラノサローネ(ミラノで実施される世界最大の国際家具見本市)期間中にミラノ市内での初のデザインコンペの展覧会を実施するなど、受賞者支援を拡充し、本アワード受賞をきっかけに世界へ活躍の場を広げられるサポートを行っています。アートコンペでは若手アーティストの登竜門となり、更に多くのアーティストの輩出を支援していきます。デザインコンペは受賞案の商品化を通じて、若手デザイナーと日本のものづくりを継続的に応援していく企画とし、日本の若き才能者たちが羽ばたくステージをさらに進化させていきます。